

国際競争力の高いスノーリゾート形成 の促進に向けた検討委員会

第1回

日時：令和4年12月7日（水） 14時～16時
会場：オンライン

1. 開会
2. 観光地域振興部長 あいさつ
3. 委員紹介
4. 座長の選任
5. 議題
 - (1) 国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業の成果と課題の整理
 - (2) カテゴリー①及びカテゴリー②の判断基準の具体化について
 - (3) 各カテゴリーに求められる要件について
 - (4) 事業費の配分の考え方について
6. 今後の予定
7. 閉会

■ 配付資料

- ・ 説明資料（本スライド）
- ・ 参考資料1 海外の主要なスノーリゾートの事例
- ・ 参考資料2 事前ヒアリング意見概要
- ・ 大田原委員ご提出資料

(五十音順・敬称略)

梅川	智也	國學院大學 観光まちづくり学部 教授
大田原	博亮	株式会社地域経済活性化支援機構 執行役員
原田	宗彦	大阪体育大学 学長
山田	桂一郎	JTIC.SWISS 代表
山田	雄一	公益財団法人日本交通公社 理事・観光政策研究部長

1. 国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業の 成果と課題の整理

スノーリゾート形成に関する検討経緯

- 観光庁では、平成27年より、スノーリゾートの活性化及び国際競争力の強化に向けた検討を進めており、これらの成果を踏まえ、令和2年度より補助事業を設け、国際競争力の高いスノーリゾート形成に取り組む地域の支援を実施。

実施時期	施策名	概要	成果
H27.1 ～H29.3	スノーリゾートの 活性化に向けた検討会	スノーリゾート地域の活性化に向けて、国内のスノーリゾート地域の現状・課題、国内外の事例等を踏まえ、今後の取組のあり方等を検討	最終報告（H29.4.28）
H29.10～ ～H31.3	スノーリゾート地域の 活性化推進会議	今後の具体的な取組を、官民が連携して推進するため、アクションプログラムの策定、モデル事業の実施及びその成果の横展開等の推進方策等について検討	アクションプログラム 2017（H29.11.29） アクションプログラム 2018（H30.8.1）
R1.12 ～R2.3	スノーリゾートの 投資環境整備に関する 検討会	国際競争力の強化に向けたスノーリゾート改革を推進するため、金融機関、地方自治体等からなる検討会において、スノーリゾートへの投資の課題・ボトルネックを明らかにし、解決方策について検討	報告書（R2.4.28）
R2年度～	国際競争力の高い スノーリゾート形成 促進事業（本事業）	国際競争力の高いスノーリゾートを形成する地域を公募し、「アフタースキー・グリーンシーズンのコンテンツ造成」「受入環境の整備」「外国人対応可能なインストラクターの確保」「二次交通の確保」「地域のプロモーション」「スキー場インフラの整備」といった取組を支援	

本事業の概要

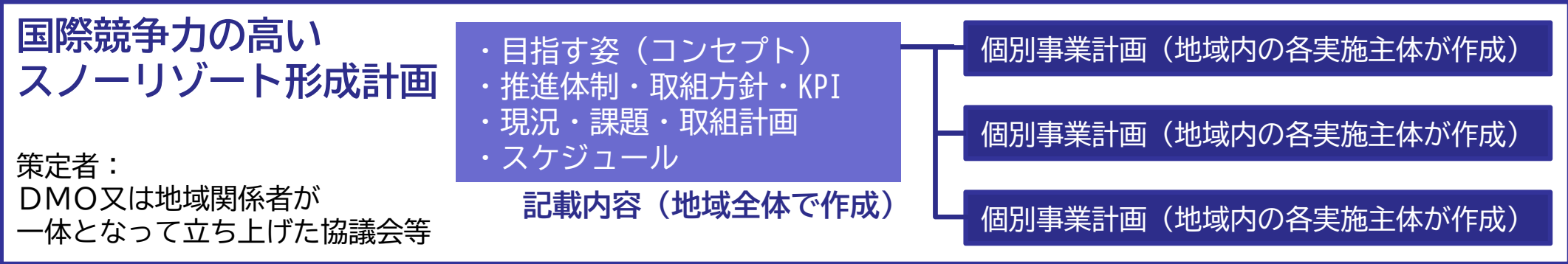
【目的】 スノーリゾートは、外国人旅行者が地方で楽しめる有力な滞在型コンテンツであり、外国人旅行者による長期滞在や更なる消費拡大につながるため、インバウンド需要を取り込む意欲、ポテンシャルの高い地域における国際競争力の高いスノーリゾート形成のための取組を支援する。

【補助対象事業】

地域の関係者が一体となって策定した「国際競争力の高いスノーリゾート形成計画」に位置づけられた以下の取組

- アフタースキー・グリーンシーズンの**体験型・滞在型コンテンツ造成**
 - 受入環境の整備（**多言語対応**、**Wi-Fi整備**、**キャッシュレス対応**、**公衆トイレ**の洋式化等）
 - 外国人対応**可能なインストラクターの確保
 - 二次交通**の確保（スキー場間の周遊等のためのバス運行の実証実験）
 - 地域の**プロモーション**（プロモーション資材の作成）
 - スキー場インフラの整備（**索道施設の撤去**※1、**搬器の更新**（機能向上分）※1、高機能な**降雪機**の導入、**ICゲート**システムの導入、**レストハウス**等の改修・撤去※2）
- ※1 R4年度は補助対象外 ※2 R4年度から補助対象

【形成計画の枠組み】



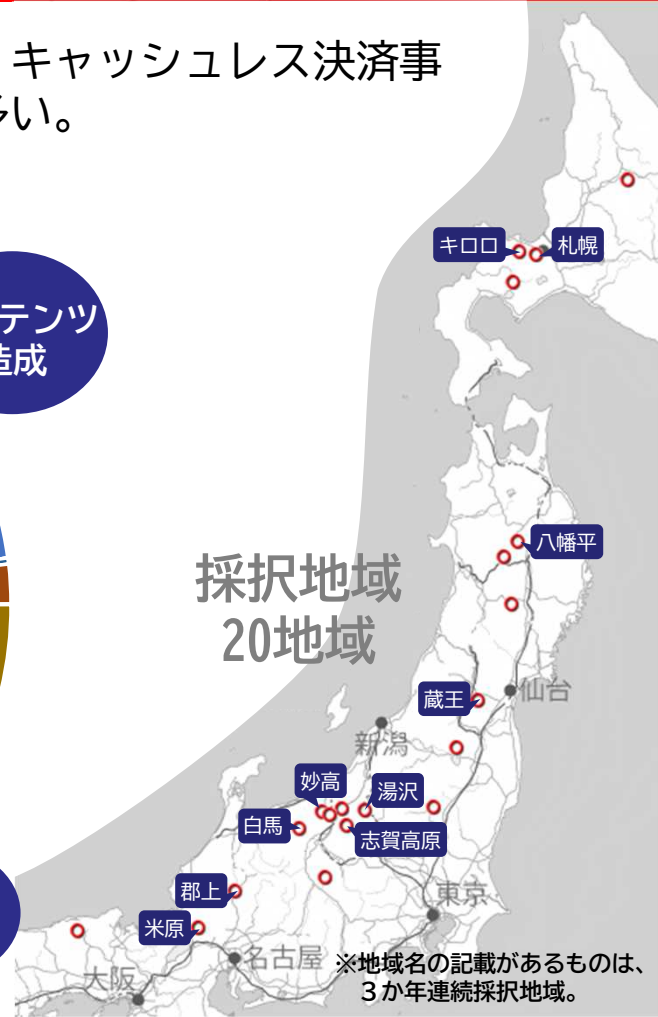
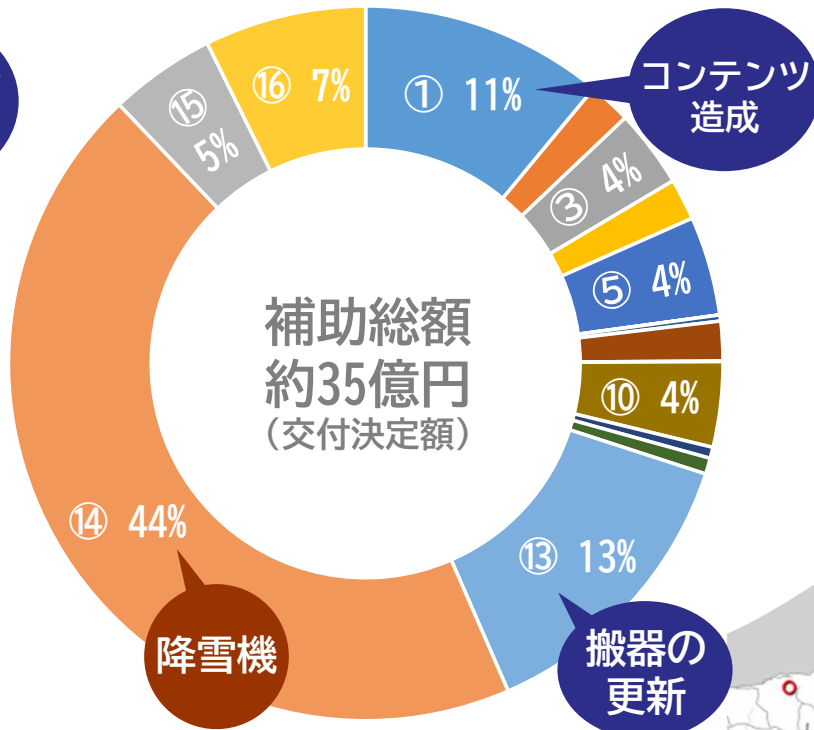
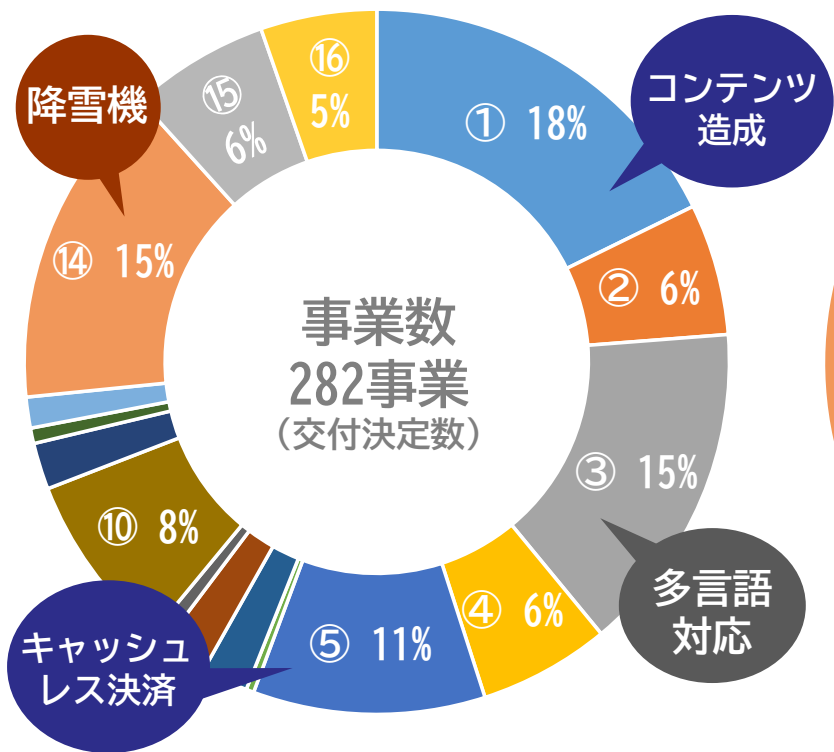
【補助対象】 観光地域づくり法人（DMO）、民間事業者等（形成計画に位置付けられた実施主体に限る）

【補助率】 1/2

【実績】 （R2～R4合計）支援地域数：20地域（延べ46地域） | 事業数：282事業 | 補助総額：約35億円（交付決定額ベース）

3カ年の実績の概要

- これまでの実績では、事業数ではコンテンツ造成、多言語対応、降雪機、キャッシュレス決済事業、金額では降雪機、搬器の更新、コンテンツ造成事業への交付決定が多い。
- 採択地域20地域のうち、10地域で3か年連続の採択を受けている。








- ①アフタースキー及びグリーンシーズンの体験型・滞在型コンテンツ企画・造成・改善
- ②アフタースキー及びグリーンシーズンのコンテンツに関する旅行商品造成
- ③多言語案内環境の改善・向上
- ④データ通信利便性向上(Wi-Fi整備等)
- ⑤キャッシュレス決済環境の整備
- ⑥外国人対応可能な人材の育成(接遇向上研修等)
- ⑦安全管理に関する事業(リスク管理講習会等)
- ⑧公衆洋式トイレの整備
- ⑨外国人対応可能なインストラクターの確保
- ⑩二次交通の確保
- ⑪地域のプロモーション
- ⑫索道施設(ゴンドラ・リフト)の撤去
- ⑬搬器の更新
- ⑭高機能な降雪機・造雪機の導入
- ⑮ICゲートシステムの導入
- ⑯レストハウス等の改修・撤去

取組事例

	アフタースキーのコンテンツ造成	グリーンシーズンのコンテンツ造成	受入環境の整備	外国人対応可能なインストラクターの確保
	キロロ（北海道）	八幡平（岩手県）	志賀高原（長野県）	八幡平（岩手県）
取組	<p>体験型スノービレッジの造成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーション ・かまくら体験・雪像 ・巨大スクリーン ・観光プロモーション ・地産地消グルメ 等 	<p>年間を通じた誘客促進のため、スキー場を活用して、マウンテンバイクコースを整備。</p>	<p>リフト券WEB購入およびキャッシュレス決済化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応の自動発券機を導入 ・販売サイトの多言語対応・QR決済端末設置 	<p>バックカントリーに求められる地域の在り方や連携に関する講習会の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外基準の安全管理等に関するウェビナー ・雪崩ポイントや対応を共有するワークショップ
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等での広がりが見込めるコンテンツが実現 ・ 来場者約8,800人(79日間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイクルツーリズム商品造成が平行して進み、八幡平の食材を巡るサイクリングツアー等、多様なコンテンツとして自走している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ WEB購入率が前年度比142% ・ QR決済額が目標値の470% (940万円) <p>⇒事前購入・キャッシュレス決済のニーズの高さを確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステークホルダーの議論の場の形成 ・ エリアのリスクの見える化、共有 <p>⇒今後の議論を展開するベースの構築</p>
様子				

取組事例

	二次交通の確保	地域の プロモーション	インフラ整備		
			降雪機の導入	ICゲートシステムの導入	搬器の更新
	湯沢（新潟県）	キロロ（北海道）	野沢温泉（長野県）	斑尾高原（長野県）	志賀高原（長野県）
取組	<p>駅⇄各スキー場間のシャトルバスを整理し、関係者連携による冬期周遊バス設定に向けた実証実験の実施。</p>	<p>地域観光コンテンツを紹介するプロモーションビデオ（4本）を作成。</p>	<p>高機能な人工降雪機の導入。</p>	<p>ICゲートシステムの導入。 ・周辺地域と連携したパスの共通券化 ・事前購入客による域内観光客の動態データ取得</p>	<p>新規整備中のゴンドラについて、補助を活用して搬器台数を拡大し、輸送力を増強。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> 移動の快適性への評価が向上。 （25%⇒74%） ⇒インバウンド回復に向けて事業化（路線バス化・観光バス化）を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成素材の活用。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ナイトタイムイベント会場での放映 ▶ 映像を活用したフォトジェニックイベント ▶ WEBでの公開など 	<ul style="list-style-type: none"> 安定したゲレンデ整備が実現し、シーズン営業日数が延長。 2019：117日⇒ 2020：148日 	<ul style="list-style-type: none"> 共通券販売による地域内周遊の促進。 リフト乗車回数や、事前購入客等の情報を入手して戦略策定に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸送力：469人/h ⇒604人/h ゴンドラ整備によるエリアのハブとしての需要の高まりに対応し、利便性が大きく向上。
様子					

これまでの事業における成果と課題

- 採択実績、審査員及び有識者からの意見、補助事業を活用している地域からの意見等を踏まえ、これまでの事業における成果と課題を以下に整理した。

成果

■ 本事業を活用した事業の成果発現

- 特に滞在型コンテンツの造成、多言語案内・キャッシュレス化等の受入環境整備、降雪機導入による営業日数の安定化に対して、本事業を活用した取組が進み、成果を上げている。

■ 地域の連携・一体化の促進

- 本事業を契機として、DMO等が中心となり、索道事業者だけでなく地域関係者と合意形成を図りながら、スノーリゾートとして一体的に取り組む体制が整ってきているとの声が多い。

■ 自主財源での事業推進を後押し

- 補助金事業と併せ、自主財源でのスノーリゾート形成への取組が進んでいる地域も多い。

課題

■ 地域の現状分析を踏まえた形成計画の熟度向上

- 他地域との比較や海外からの認知度を踏まえたポジショニング分析、ターゲット設定が不十分なため、明確な目標像（目指す姿）や競争戦略が描けていない地域が多い。
- 地域の目標像（目指す姿）を設定するにあたり、ICTを活用した顧客データ分析や、地域全体での経済効果分析など、データに基づく説得力のある分析ができていない地域が多い。

■ 事業費の効果的な配分

- 形成計画はDMO等がとりまとめているが、補助事業は事業者からの要望の寄せ集めになっており、形成計画で示した「目指す姿」と補助事業とのつながりが不十分な地域が多い。
- 結果として形成計画の評価に関わらず、応募要件に適合する事業を広く採択しており、効果が高い事業への重点投資となっていない。

■ 外国人に対応した人材育成の促進

- 外国人対応可能な人材育成やインストラクター確保は、国際競争力を高める上で必要性が高いという指摘は多いが、実際にインバウンドが戻っていない中で、事業として十分に活用されていない。

令和4年度の審査におけるカテゴリー分類の試行

- 令和4年度より、有識者の意見等を踏まえ、誘客ターゲットを明確化し、スノーリゾートの特性に応じたきめ細かな支援とするため、スノーリゾートの目指す姿を明確にするとともに、スノーリゾートを類型化した上で、これに基づき申請事業を審査し、支援地域及び採択事業を決定することとした。

【令和4年度審査で試行したカテゴリー分類の考え方】

	カテゴリー①	カテゴリー②
対象 (定義)	滑りを求め、ヨーロッパアルプスやロッキー等と比較して日本を来訪しようとする者を惹きつけるスノーリゾート	雪を見慣れていない、雪に親しむ系の者が利用しやすいスノーリゾート
必要な要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキー場としてのスケール、雪質（パウダースノー）、ダイナミックかつ快適にスキーを楽しめるコース（バックカントリースキー等を含む）。 ・ 多様なアフタースキー（スキー以外）の楽しみ方（飲食、まち歩き、日本ならではの体験、娯楽、国立公園や文化財と連携した取組など）が充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者・初級者向けを中心に、中級者コース程度までのコースが充実（雪遊びも含む）。 ・ 外国語対応可能なスクールや、ゲレンデ内に託児所や休憩施設など、雪以外でも楽しめる工夫。 ・ 多様なアフタースキー（スキー以外）の楽しみ方（飲食、まち歩き、地域との交流、日本ならではの娯楽、国立公園や文化財と連携した取組など）が充実。

- 令和4年度の審査においては、カテゴリー①での採択が想定される「索道施設（ゴンドラ・リフト）の撤去、搬器の更新」が補助対象外のため、カテゴリー①、②について補助対象に大きな差はなく、おおむね共通する支援内容となった。

試行結果を踏まえ、カテゴリー分類の考え方等について、本委員会を通じて内容の精査を行い、形成計画を作成する地域に示すとともに、令和5年度以降の審査で本格的に運用することとしたい。

本委員会の検討事項

○ 令和4年度の試行結果を踏まえ、令和5年度の審査に向けて、本委員会で以下の内容を検討する。

● **カテゴリー①及びカテゴリー②の判断基準(定量的な目安や定性的観点からの評価事項)の具体化**

例えば

- ・ インバウンド利用実績（スキー場・ベースタウン）
- ・ スキー場規模（総滑走距離・最長滑走距離・メインゴンドラ輸送能力・国際大会実績）
- ・ 地域一体化の目安としての共通リフト券や二次交通の設定状況、これらの利用実績・使い勝手
- ・ 連携事業者による補助事業以外での投資計画（索道の更新、ベースタウン開発、コンテンツ） 等

● **各カテゴリーに求められる要件(国際競争力の高いスノーリゾートとして目指す姿)の設定**

例えば

- ・ 「スノーリゾート」としての、スキー場群とベースタウンの一体性
- ・ スキー場のスケールや雪質、ターゲット（上級者～初心者・雪遊び）に応じた利用環境
- ・ ベースタウンの魅力や長期滞在に対応した滞在環境・アフタースキーコンテンツ
- ・ 投融資を呼び込み発展していくための具体的な戦略・資金計画・体制
- ・ その他、訪日外国人を惹きつける独自の魅力（高標高の自然景観・国立公園・温泉街等） 等

● **事業費の配分の考え方**

例えば

- ・ カテゴリー①の事業を優先的に採択し、重点的に投資
- ・ 「目指す姿」への到達に資する事業について、カテゴリー別の補助対象メニューの設定 等

2. カテゴリー①及びカテゴリー②の判断基準の 具体化について

カテゴリー判断基準の候補

- 事前ヒアリングでの意見等を踏まえ、カテゴリーの判定に用いる定量的な目安や定性的観点からの評価指標の候補を以下に整理する。

カテゴリー①の判断基準となる定量的指標（形成計画申請地域単位で集計）

■ スキー場に関する基礎データ

インバウンド来場者数	現時点の利用実績（実数・割合・前年度比）として実質的な国際競争力の目安となる
索道輸送人員	法に基づく統計データとしてスキー場の利用状況の目安となる
総滑走距離	スキー場としてのスケールを把握する目安となる
最長滑走距離	長い距離を滑りたい中・上級者向けの環境を提供できている目安となる
標高差	地形を生かしたダイナミックなコースを提供できている目安となる
メインゴンドラ・リフト輸送能力	スキー場としての集客能力、索道への投資の目安となる

■ ベースタウンに関する基礎データ

宿泊施設の客室数	滞在環境の規模感の目安となる
飲食店数	長期滞在者の泊食分離に対応できる目安となる

※ カテゴリー②の判断基準となる定量的指標は不問とし、これまでの審査と同様、形成計画に記載された定量的・定性的な内容を総合的に評価することを想定。

カテゴリー①の判断基準となる定性的指標

■ 地域の一体性に関する状況

ベースタウンの誘客力・スキー場間の二次交通	地域一体として長期滞在可能な環境を提供できている目安となる
形成計画地域内での共通リフト券の設定	地域一体として利便性の高いスキー環境を提供できている目安となる
地域マネジメント体制	合意形成・意思決定が円滑に進み、継続的に観光地域づくりが進みうる体制かを確認する

■ スキー場の誘客力に関する状況

国際大会の実施実績	世界的な知名度や、スキー場として備えるべき水準を満たしている目安となる
世界的アライアンスパスへの加入状況	世界的な知名度や、スキー場として備えるべき水準を満たしている目安となる
パウダースノー（バックカントリーを含む）を生かしたコースやコンテンツ	日本の雪質を求めて来訪する中・上級者向けの環境を提供できている目安となる

■ 投資計画に関する状況

長期的・面的な投資計画、経営改善計画	自己資金や外部からの投融資を活用したスノーリゾート形成が進みうるかを確認する
--------------------	--

■ その他

その他	国内外の他地域と差別化した、訪日外国人を惹きつける独自の魅力があるかを確認する
-----	---

インバウンドの滞在状況（東北）

各地点の外国人訪問客のうち、1時間以上そのメッシュの範囲に滞在した人数(RESASにて作成)

紺囲みは採択地域

外国人滞在メッシュ 2017年8月～2018年7月

一部のスノーリゾートにインバウンドの集中が見えるが、北海道や信越ほどのボリューム感はない。



【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」
 【注記】+
 【その他の留意点】+
 (C) 2017 NTT DOCOMO, INC. & DOCOMO InsightMarketing, INC. All Rights Reserved.
 map data ©OpenStreetMap contributors, under CC BY-SA2.0

インバウンドの滞在状況（関東～中部・信越）

各地点の外国人訪問客のうち、1時間以上そのメッシュの範囲に滞在した人数(RESASにて作成)

紺囲みは採択地域

外国人滞在メッシュ 2017年8月～2018年7月

山間部においてインバウンド滞在が多いエリアは、スノーリゾートであることが多い。



【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」
 【注記】+
 【その他の留意点】+
 (C) 2017 NTT DOCOMO, INC. & DOCOMO INSIGHT MARKETING, INC. All Rights Reserved.
 map data ©OpenStreetMap contributors, under CC BY-SA 2.0

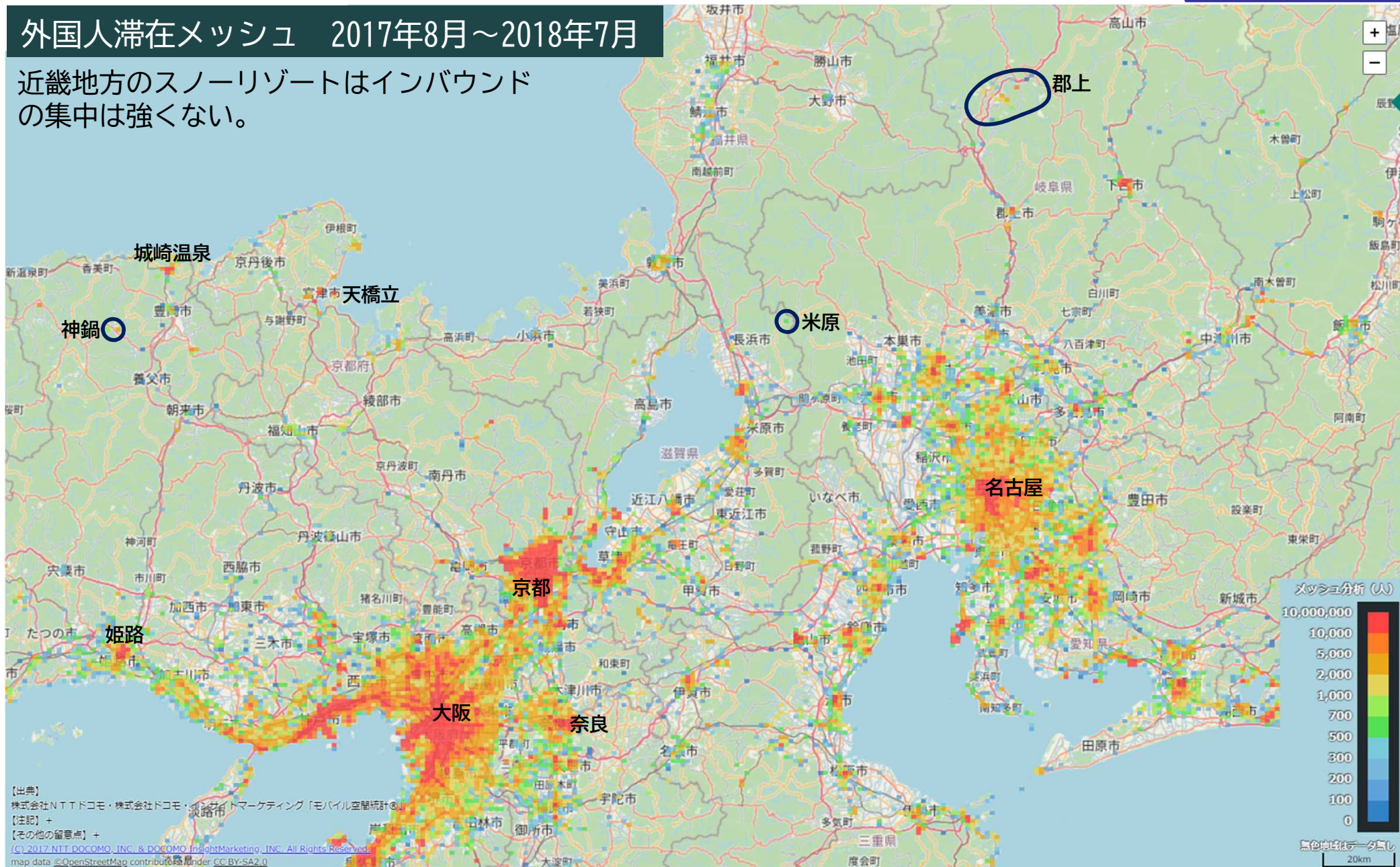
インバウンドの滞在状況（近畿）

各地点の外国人訪問客のうち、1時間以上そのメッシュの範囲に滞在した人数(RESASにて作成)

紺囲みは採択地域

外国人滞在メッシュ 2017年8月～2018年7月

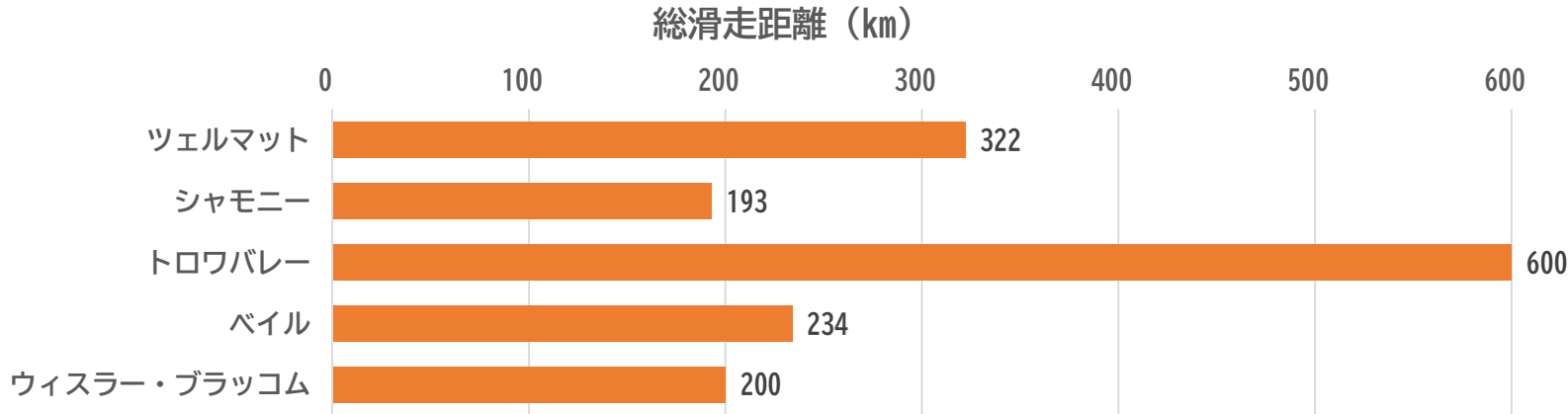
近畿地方のスキーリゾートはインバウンドの集中は強くない。



定量的指標に関する参考データ①

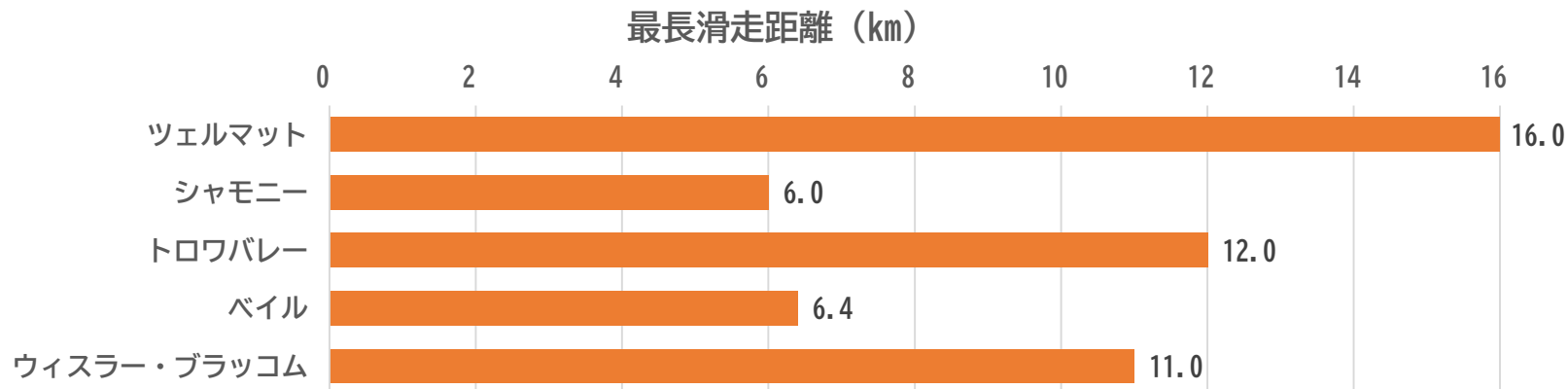
■ 総滑走距離

- 世界のスノーリゾートでは、リゾート全体で200kmを超える総滑走距離を有していることも多い。
- 日本のスノーリゾートの代表例では、HAKUBA VALLEYエリア10スキー場を合計した総滑走距離は135km。



■ 最長滑走距離

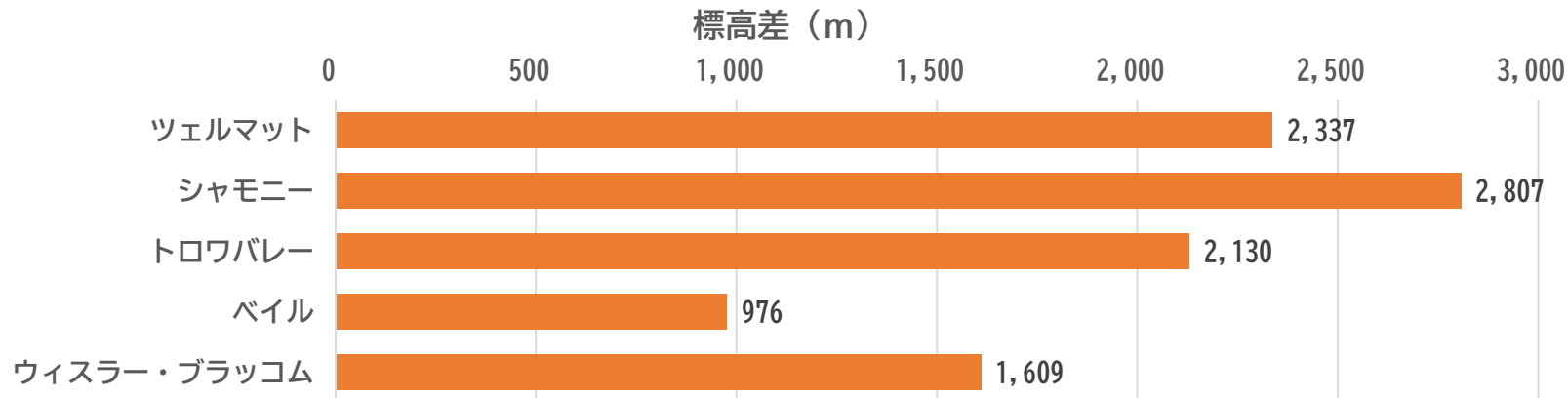
- 世界のスノーリゾートでは、10kmを超える最長滑走距離のコースを有していることも多い。
- 日本のスノーリゾートの代表例では、蔵王温泉スキー場で最長滑走距離10kmのコースを有する。



定量的指標に関する参考データ②

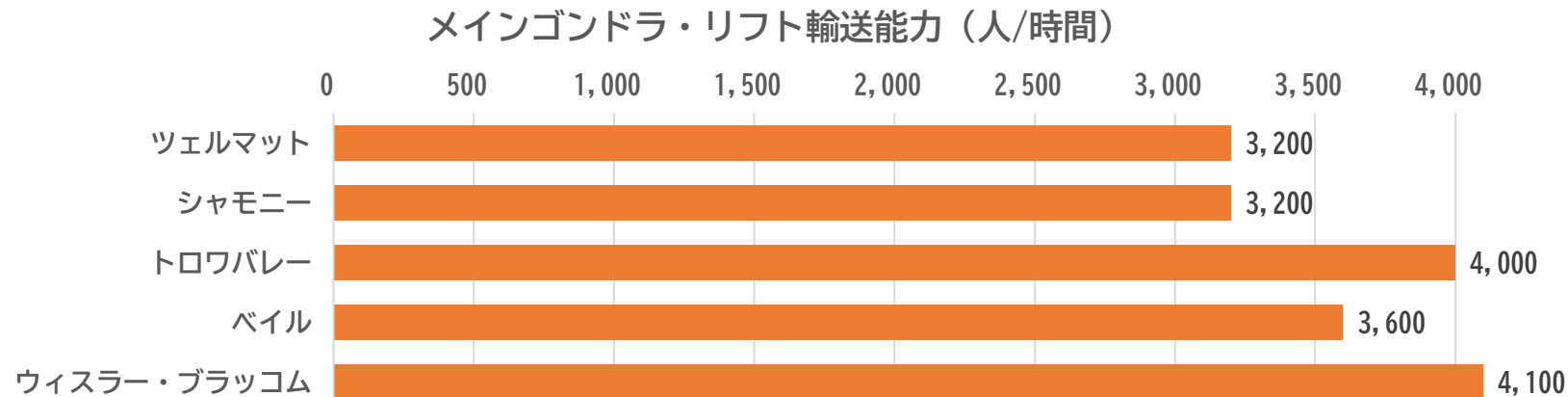
■ 標高差

- 世界のスキーリゾートでは標高差が2,000mを超えるものも多くある。また、ピークの標高も3,000mを超え、森林限界より高いため、広大な眺望が楽しめる。
- 日本のスキーリゾートの代表例では、かぐらスキー場（湯沢）で1,225mの標高差を有する。



■ メインゴンドラ・リフトの輸送能力

- 世界のスキーリゾートでは最大3,200人/時間以上の輸送能力を持ったゴンドラ・リフトを所有していることが多い。
- 日本のスキーリゾートの代表例では、高鷲スノーパーク（郡上）で最大3,200人/時間の輸送能力を持ったゴンドラを所有。

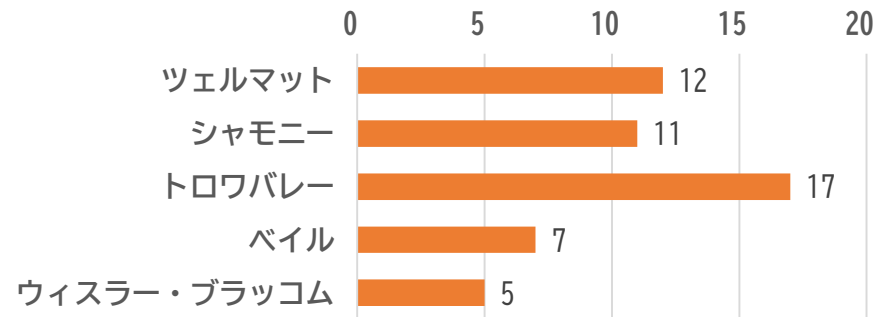


定量的指標に関する参考データ③

■ ベースタウンの滞在環境

- 世界のスキーリゾートでは、ベースタウンにミシュランガイド掲載ホテルが複数あることが多い。
- 日本のスキーリゾートでは、札幌、湯沢、白馬でミシュランガイドに掲載されるホテルがある。


世界のスキーリゾートにおけるミシュランガイド掲載ホテル数



※2022.11ミシュランガイドWEBページで検索

定性的指標の候補

■ スキー利用者のための二次交通の例



CARTE D'HÔTE - GUEST CARD

The guest card offers you free travel on buses and on the SNCF network for internal journeys between the communes of Servoz and Vallorcine. Discover the complete list of advantages that the guest card offers you [by clicking here](#)



Town of Vail bus service
now operating

EARLY WINTER SCHEDULE

Nov. 11 - Dec. 12

WINTER SCHEDULE

Starts Dec. 13

シャモニー（フランス）：スキースカ宿泊者に配布されるゲストカード「カルト・ドット」を提示すると街中のバスが無料で利用可能

出典 | <https://en.chamonix.com/la-carte-d-hote>

バイル（アメリカ）：公共の無料循環バスが運行されており、地図上でリアルタイム運行情報が提供されている

出典 | <https://www.vail.gov/government/departments/transportation-services/bus-information>



SHUTTLE BUS 2022 NASPA・湯沢高原・GALA湯沢・石打丸山
 NASPA・YUZAWA KOGEN・GALA YUZAWA・ISHIUCHI MARUYAMA

無料 シャトルバス時刻表
 "Hop-on, Hop-off" Free shuttle bus schedule

BusGo (GPS位置情報システム搭載) バスの位置情報は [こちら](#)

2021年12月24日(金)～2022年3月27日(日) 24 Dec '21 - 27 Mar '22

湯沢：ベースタウンの宿泊施設と近隣スキー場を結ぶ無料シャトルバスの運行（GPS位置情報システム搭載）

出典 | <https://www.yuzawakogen.com/valuable/shuttle-bus/>



上信越高原国立公園 志賀高原

ナイトシャトルバス

夜の志賀高原を楽しもう!

無料

プレゼント
 ご乗車の方に山ノ内駅よりリアルマスクケース (マスク1枚) プレゼント!

アンケートに答えてプレゼントGet!
 志賀高原南山リゾート1日券(3名様)や志賀高原内で使えるバス券(1枚)をプレゼント!

2022年 運行カレンダー

3/10	3/11	3/12	3/17	3/18	3/19	3/20
------	------	------	------	------	------	------

志賀高原：エリア内の飲食店を利用できるよう無料のナイトシャトルバスを運行

出典 | https://www.go-nagano.net/topics_detail11/id=19114

定性的指標の候補

■ 地域内での統一WEBページと共通リフト券の例



スキーラマドロミテ（イタリア）：8リゾートを一体としたポータルサイトを構築し、共通リフト券を販売

出典 | <https://www.skirama.it/en>



ニセコ：全山共通パスを設定し、オンライン発券機の位置を周知

出典 | <https://www.niseko.ne.jp/ja/online-liftpass/>



アスペン・スノーマス（アメリカ）：4リゾートを一体としたポータルサイトを構築し、共通リフト券を販売

出典 | <https://www.aspensnowmass.com/four-mountains>



白馬：10スキー場共通リフト券購入者は、HAKUBAVALLEY内のシャトルバスを無料で乗車可能

出典 | <https://www.hakubavalley.com/ticket/onlinewebshop/>

■ 世界のスキーリゾートアライアンスパスの例



バイルリゾートが所有・管理・運営するウィンターリゾートと提携リゾート、約60リゾートで利用できる早割リフトパス

主要な加盟リゾート：

バイル、ウィスラー・ブラッコム、トロワバレー、アールベルク、ドロミテ、**白馬**、**ルスツ**など

参考：<https://www.goskiamerica.com/Topic/EpicPass.html>



アルテラ マウンテン カンパニーが所有・管理・運営するウィンターリゾートと提携リゾート、約50リゾートで利用できる早割リフトパス

主要な加盟リゾート：

カッパーマウンテン、ツェルマット、シャモニー、ドロミテ、キッツビュール、**ニセコ**など

参考：<https://ikonpassjapan.com/>



世界のスキーリゾートが提携したアライアンスプログラム。提携25スキー場で各2日間、合計50日分利用可能なパス

主要な加盟リゾート：

アспেনスノーマス、シャモニー、レイクルイーズ、サンピークス、サンバレー、**ニセコ**など

参考：<https://mountaincollective.com/>

定性的指標の候補

パウダースノーをいかしたコンテンツの例



ウィスラー・ブラッコム（カナダ）：バックカントリーアクセス用のリフト及びチケットを設定し、安全利用のためのルール設定を行っている

出典 | <https://www.whistlerblackcomb.com/the-mountain/about-the-mountain/backcountry.aspx>



ツェルマット（スイス）：ヘリコプターで標高4,200mまで移動し、氷河を下るヘリスキーを実施している

出典 | <https://www.air-zermatt.ch/en/>



八幡平：雪上車を用いたバックカントリーのガイドツアーを実施している

出典 | https://www.appi.co.jp/activity/hachimantai_cat_tour/

コンテンツ 02 国内随一のジャパンパウダースノーを満喫！
志賀高原内のバックカントリーガイド
バックカントリーガイド

ご要望や天候状況に応じて、奥志賀高原を中心とした志賀高原内のバックカントリーをご案内します。

時期 1月～3月
所要 120～300分
料金 大人(16歳以上)19,000円～
問合せ 株式会社インターナショナルスキースクール
電話 0269-24-2007
E-mail info@shigaskischool.com
URL https://www.shigaskischool.com

志賀高原：国立公園の体験型コンテンツとしてバックカントリーガイドを設けている

出典 | https://www.env.go.jp/nature/mankitsu-project/contents/pdf/park_map_joshinetsu.pdf

定性的指標の候補

■ 他地域と差別化した独自の魅力の例



シャモニー（フランス）：ヨーロッパ最高峰のモンブラン山頂付近まで簡単に登ることができ、ゴンドラを乗り継いでイタリアのクールマイユールまで行ける

出典 | <https://www.montblancnaturalresort.com/en/aiguille-du-midi>



蔵王：蔵王国定公園のアオモリトドマツに雪が付着して形成される樹氷が独特の景観を形成している

出典 | <http://www.kankou.yamagata.yamagata.jp/zao/jyuhyo/>



トロワバレー（フランス）：ベースタウンの一つクーシュベルは、高級リゾートとして、プライベート機用の空港や、星付きホテル・レストラン、ブランドショップなどが立地

出典 | <https://courchevel.com/en/one-station-6-universe#Courchevel-Village>



野沢温泉：温泉情緒が残る純日本のスキーリゾートであり、13の共同浴場を無料で利用できる

出典 | <https://www.classic-mountain-resort.com/jpn/nozawa-j022/>

3. 各カテゴリーに求められる要件について

カテゴリーに応じて必要な要件（案）

- 「国際競争力の高いスノーリゾート」の目指す姿として、カテゴリーによらず共通に必要な要素と、特にカテゴリー①のスノーリゾートに必要なと考えられる要件をそれぞれ示す。
- 各地域は、形成計画作成において、これらの要件に照らし不足する面を確認した上で、必要な事業を設定する。

形成計画評価の視点	求められる要件(国際競争力の高いスノーリゾートとして目指す姿)	
	カテゴリー①②共通に必要な要件	カテゴリー①に必要な要件
地域のポテンシャル、 地域経営 (地域の一体性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>応募地域が一体としてスノーリゾート形成に取り組んでいる</u> (関係主体の参画・合意形成・意思決定) ・ <u>STP分析等に基づいて独自のターゲット及び数年後までの目指す姿を描き、そのために必要な取組(対応者、年次計画)をエリア戦略として示している</u> ・ <u>戦略に基づき、自己資金や補助金だけでなく、様々な投融資を活用してさらに発展していくための資金計画</u> (これまでの取組も含め) がエリア全体として示されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>エリア全体を一つの共通リフト券で自由に利用できる</u>※ ・ <u>DMO等によるマネジメント体制が構築され、データ分析に基づいたマーケティングを行っている</u>※ ・ <u>オールシーズン化をすすめ、収益の安定化や通年雇用の促進を図っている</u>※ ・ <u>SDGsに留意した取組がされている</u>※ ・ <u>日本の山並みの魅力を感じられる雄大な眺望など、訪日外国人を惹きつける独自の魅力がある</u>※
スキー場の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>現時点である程度のインバウンドが来訪している</u> ・ <u>初心者・初級者向けを中心に、中級者程度までのコースや雪遊びコンテンツが充実し、誰でも雪を楽しみ、安心して滞在することができる</u> ・ <u>経営の安定化に向けた検討・取組を進めるとともに、老朽化した索道の統廃合・更新をはじめとしたスキー場の高質化の計画が定められている</u> ・ <u>外国語対応可能なスクールが充実している</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>現時点で欧米豪を含む多くのインバウンドが来訪しており、世界的に一定の認知度がある</u> ・ <u>上級者に対応した十分なスケールと多様なコースがあり、国際大会の使用実績があるなど、世界の主要スキー場を利用するスキーヤー・スノーボーダーでも満足できる</u> ・ <u>バックカントリーを含め、雪質(パウダースノー)を活かしたコース・コンテンツがある</u> ・ <u>計画的に索道の統廃合・更新が進み、快適に索道が利用できる</u>※
ベースタウンの魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多様なアフタースキーの楽しみ方(飲食、まち歩き、日本ならではの体験、娯楽、国立公園や文化財と連携した取組など)がある(必ずしもスキー場と隣接していなくても良い)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>長期滞在に対応できるベースタウンの環境がある(多様なニーズに対応した宿泊施設、飲食)</u>※
受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ベースタウンと各スキー場との間の二次交通が確保されている</u> ・ <u>スキー場・ベースタウンの主要箇所での多言語対応、キャッシュレス化、Wi-Fi対応</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>各スキー場間をつなぐ二次交通が確保されている</u>※ ・ <u>ベースタウンと各スキー場との間の使い勝手の良い二次交通(適切な便数・情報提供・MaaS対応)がある</u>※

※は、カテゴリー②であっても、地域の状況に応じて実施することが望ましい内容

スノーリゾートのタイプとカテゴリー (案)

○ スノーリゾートのタイプは様々であるが、カテゴリー①となるリゾートでは、隣接するベースタウンやリゾートホテル群を持ち、長期滞在に対応できることが必須と考えられる。

複数の山で一つのエリアを形成する スキー場群と ベースタウン・リゾートホテル群

スキー場群としてのスケールが大きく、エリア内での長期滞在が可能であれば、カテゴリー①の有力候補となる



域内周遊二次交通

域内を周遊する二次交通により、滞在メニュー利用の利便性を高めることが有効



近隣観光地

近隣観光地との連絡

一山のスキー場と隣接するベースタウンまたは直結するリゾートホテル群

スキー場として一定のスケールを有し、長期滞在の環境が整っていれば、単独でもカテゴリー①の候補となりうる



近隣リゾートとの連絡

近隣リゾートが連携し、一体の地域として誘客することでスケールを拡大し、国際競争力を高めることも有効

都市観光・交通拠点



各リゾートとの二次交通

隣接するベースタウンやリゾートホテルがないスキー場

スノーリゾートとしての長期滞在は考えにくく、原則としてカテゴリー②となる



観光周遊のキラーコンテンツとして、近隣の都市観光拠点等から誘客する

形成計画の対象範囲にとらわれず、近隣交通拠点や観光地を含めたマーケティングのエリアを設定し、広域的な視野での誘客戦略を検討することが必要

二次交通のイメージ

- 交通事業者による運行 (広域)
- 地域関係者連携による運行 (近隣)

形成計画 (事業計画作成) の主な対象範囲

誘客戦略の対象範囲

4. 事業費の配分の考え方

カテゴリーに応じた採択事業の設定（案）

- 目指す姿の達成に向けて必要な取組に対応する補助事業メニューを整理するとともに、カテゴリーに応じた必要性を判断し、採択の考え方を設定する。

目指す姿の達成に向けて必要な取組	補助事業メニュー	採択の考え方
本格的スキーヤーにとっての満足度向上	索道施設の新設(高標高域への拡張等)、搬器の更新	カテゴリー②での必要性は高くないことから、カテゴリー①に絞って採択
上級者を誘客するための取組	バックカントリーを対象としたコンテンツ造成やプロモーション等	
スキー場間の相互利用促進	ICゲートシステムの導入、二次交通の確保(スキー場間)、索道施設の新設(スキー場間の連結)	カテゴリーを問わず、すべての地域で必要であることから、形成計画としての評価が高い地域から順に採択
長期滞在の誘発	コンテンツ造成(ナイトタイム・ベースタウン)、二次交通の確保(スキー場～ベースタウン)	
経営安定化につながるオールシーズン対応	グリーンシーズンの体験型・滞在型コンテンツ造成	
経営安定化につながる環境改善	高機能な降雪機の導入、索道施設・レストハウスの撤去(合理化)	
スキー場での過ごし方の多様化・高質化	コンテンツ造成(スキー場)、レストハウス改修	
インバウンドを誘客するための発信	地域のプロモーション	
インバウンド受入環境整備	多言語対応、Wi-Fi整備、キャッシュレス対応、公衆トイレの洋式化等	
インバウンド対応人材育成	外国人対応可能な人材の育成(接遇向上研修等)、外国人対応可能なインストラクターの確保	